

崇城大学工学部宇宙航空システム工学科
宇宙航空システム専攻

おがわ のぶひろ

小川 修弘 講師



専門分野	航空機操縦教育(固定翼・回転翼)、 航空教育全般
最終学歴	オレゴン州立大学 航空課程
学 位	無
職 歴	エアーフライトジャパン(AFJ)

小川研究室では、主要国際空港における空港形態と今後の課題、利益相反する航空安全に対する AI 活用方法、について研究を行っています。

主要国際空港における空港形態と今後の課題

- ・ 毎日多くの便数を処理しなければならない主要国際空港における、安全運航を達成する為に、空港の立地やその土地の風土に対応した運航を可能とし、効率よく処理することが必要とされる。
- ・ 理想的な空港形態と日本の主要国際空港の今後の改善策を導くために本論文においては、九つの主要国際空港について、空港を取り巻く背景も考慮した運営携帯と安全阻害要因を調査研究する。

イギリスとオランダの協定の改定から始まり、世界全体のグローバル化が進む中で、現在では多くの国が空の自由化を行っている。日本では自国の航空会社に配慮して、長い間自由化という航空政策が行われてこなかった。

そのためヨーロッパやアメリカの航空界と比べ遅れが懸念されている。一方、イギリスの空港民営化の動きから始まり空港の形態も変化し始めている。これに加えて航空自由化による LCC(ローコストキャリア)の台頭などで航空需要も創出されているが、空港側も航空会社を呼び込むために様々な工夫を凝らす必要が出てきた。そして、空港運営に努力すると同時に毎日多くの便数を処理しなければならない主要国際空港では、安全運航を達成するために、空港の立地やその土地の風土に対応した運航を可能とし、効率よく処理することが必要とされる。研究室においては、空港の民営化の過程を整理し、各主要空港それぞれに存在する安全阻害要因及び各種の航空規制、行政の過大な介入による法律規制などを調査すると共に、理想的な空港の形態と日本の国際空港の直面する課題を考察したい。

(ヒューマンエラー)

現在、空港における事故のほぼ全てが人間のミスによると考えられている。これらに AI を積極的に関与させれば必ず事故率は低下されたとの研究も各国で始まっている。本邦においても AI 活用が必須である事を研究に含める。



飛行訓練教育



凍結気象条件下による飛行教育